2015 年 9 月 14　日

引地正之
日本学生海外移住連盟（学移連）OB 会西日本支部
海外事情研究会 OB

日伯友好 120 周年記念日伯高校サッカー交流試合報告



日伯友好 120 周年を記念して、滋賀県東近江市にある日本ラチーノ学院と京都市立堀川高校のサッカー交流試合が 9 月 13 日（日）午前 10 時から東近江市甲津畑町の日本ラチーノ学院で開催されました。

この催しには、ラチーノ学院教職員・生徒・保護者、堀川高校教職員・生徒、及び学移連 OB 会西日本支部・京都外国語大学学生、地元住民など 100 名を越す人々が参加して大変賑やかに行われました。

試合に先立って、午前 10 時から同校校庭でオープニングセレモニーが開催され、両国国歌斉唱に続き、ラチーノ学院中川理事長、カイオ上村校長、堀川高校サッカー部木村監督が挨拶されました。

来賓としてご出席の東近江市川並市会議員、東近江市滝澤企画課長、学移連 OB 会西日本支部引地支部長、京都外国語大学校友会中村事務局長の皆様のお祝いのご挨拶が続き、キャプテンによる、両チーム、選手紹介が行われました。

引き続き、日伯友好 120 周年を記念して植樹祭が行われ、ブラジルの国花イペーの苗木が学院中川理事長、カイオ校長や来賓の方々によって、両国友好のシンボルとして大きく成長することを願って植えられました。



1



午前 11 時 15 分からラチーノ学院・堀川高校のサッカー交流試合が開始され、校庭は通常のサッカー場より狭いので、チームは 7 名ずつ、30 分間の 3 試合行われました。



両校の選手達はスポーツマンシップのもとに、全力で戦い観戦者の感動と大きな声援を呼びました。第 1 試合は 1-1 で引き分け、第 2 試合は 2-1 でラチーノ学院の勝利、第 3 試合は、堀川高校が最後の力を振り絞り、1-3 で勝利。3 試合を通じて 4-5 の白熱したゲームが展開され、僅差で堀川高校の勝利で終えました。

ラチーノ学院は、ブラジル人の性格を表し、個人プレーで積極的にゴールを目指していましたが、反面、堀川高校はチームプレーを重んじ、両チームの性格が良く表れていた試合だと思いました。

両校の選手たちが全力で真剣に試合をしている姿は、来賓の方はもとより、両校のカイオ上村、恩田徹両校長を始めとする観戦の人々に感動を与え、大きな声援となって、付近の山々に響き渡りました。



試合終了後の 12 時 30 分からは、焼き肉パーティが催され、とても楽しい時間を過ごしました。中でも京都外国語大学 OB 河野氏が作る焼きそばはプロ顔負けの味で大変な人気でした。両校の選手たちは、ボランティアの手になる料理に舌鼓を打ちながら、片言の日本語や初めて接するポルトガル語に耳を傾けながら、サッカー交流試合の結果や両校の学校生活などを話し合い、和気あいあいとした交歓がそこかしこで見られました。

当日のサッカー交流試合には、京都外国語大学校友 7 名、学生 3 名が参加して交流試合を盛り上げました。

今回は、日本・ブラジル友好通商条約締結 120 周年記念にあたり初めての試みとして学移連ＯＢ会西日本支部が企画・立案して京都外国語大学校友会中村事務局長の協力を戴き両校のサッカーの交流試合が実現しました。この様な、両校のサッカー交流がきっかけとなって、両国の高校生達が親善を深め、友情の懸け橋となることを祈っております。

完